

今の暮らしに感謝の気持ちを

星峯中学校 三年 藤崎 梨愛音

みなさんは、「戦争」について考えたことはありますか？私はある事がきっかけで戦争について深く考え、たくさんの事を知ることができました。

それは二年前の出来事です。私の祖父が友人と一緒にチャリティコンサートという募金活動に参加しました。私は、母に連れられ見に行きました。そこで祖父達が歌った歌がすごく印象に残りました。

「戦争を知らない子どもたち」

この一曲に私は心を動かされました。一つ一つの歌詞にすごく深い意味があります。その中でも私の耳にずっと残っている歌詞があります。

「戦争が終わって僕らは生まれた、戦争を知らずに僕らは育った。」この歌詞を聞いた時、自分の事だ、と思いました。戦争が終わり平和な日本に生まれた自分。戦争のことを知らずに幸せな暮らしをあたりまえかのように感じ、育ってきた自分。そんな自分が、どれだけ幸せ者なのかすごく思い知らされました。戦争についてもっともっと知りたいと思った時に、あるアニメ映画に出会いました。「ほたるの墓」という物語です。よくある幼いお兄ちゃんと妹の節子の感動する話。最初はそう思っていました。けれど、見方を変えると色々な感情がでてきました。一つは、あんなに幼い歳でお父さんお母さんを失い、節子はよくがまんして強く生きてきたなと思いました。私は今この歳でも親がいない生活は考えられません。けれど、そんな節子を支え、寂しい思いをさせないように節子の事をずっと考えていたお兄ちゃんは、すごくかっこいいなと思いました。見る視点を少し変えただけで、「ほたるの墓」は平和の中にある家族の愛を表して

いる物語ということが分かりました。今この世界は平和でみんな幸せに暮らせている。そう思っていました。その私の考えは大間違いでした。今でも戦争が続いている国やお金が無く食糧が足りなく苦しむ国、差別や誹謗中傷などで自殺する人の多い国。そのようなまだ今も苦しんでいる国がたくさんあります。私の中でも一番おどろいたのは、地面に爆弾が埋められていて、その上を歩いてしまうと簡単にあつという間に、頭や手足、時には命までうばう「地雷」というものが埋められている国があるということです。その国に住むある女の子の話を知りました。その子の足は片方はひざから下がありません。一年前に友達と楽しく遊んでいる時に、走りながら地雷が埋まっている地面の上を通ってしまったのです。バーンと一瞬でその女の子は高く飛ばされ、命はなんとか無事でしたが、その女の子の「もう一度、走りまわりたい」という思いは叶わなかったそうです。その話を聞いた時、私は正直かわいそうと思いました。けれど、片足を失った女の子はインタビューでこう答えていたのです。

「足が片方ないぐらいどうってことない、そんなことよりこうやって今を幸せに生きていることが何よりもうれしい。」その一言が私をすごく考えさせてくれました。自分がもしこの子の立場だったらそんな前向きな発言ができていただろうか。いや、絶対に自分だったら心が折れてしまいこんな前向きな発言はできません。だからこそ、この女の子の言葉がすごく私の中でひびいたので

「戦争を知らない子どもたち」だけれど、「戦争のことを知ろう」としなないといけないと私は思います。戦争を知らない、だったら学ぼうということをして一人一人みんなが思う事が大切だと思います。それを実現させ、今のこの平和をみんなで守りぬき、苦しい生活をしているたくさんの国の人達が少しでも、一人でも多く助かり、幸せになれるように努力していこうと思います。